



知的好奇心が広がる「ふるさと学習！」

子どもたちに町の自然や歴史に触れてもらい、ふるさとに誇りをもってもらうことを目的に各学校で取り組んでいる教育活動が「ふるさと学習」です。地域を教材化することは児童にとって、「自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成」を図る総合的な学習の目標に照らし、身近な地域とのかかわりを通して行う学習に外なりません。7/15(木)には、舞戸小6年生が地域の歴史的な施設見学を兼ね、餅の沢遺跡や戦争遺構の山田野兵舎跡、監獄としてのトーチカなどを見学して知識を広めました。9/3(金)には西海小の3、4年生が、町の歴史的発展に影響を及ぼした「北前船」について学習しました。町総括学芸員の中田書矢氏が難しい史実を小学生向けにわかりやすく話され、子どもたちはワークシートに記入しながらそれぞれの興味関心につなげていたようです。また、9/8(水)には《津軽の京まつり》と称される4年に一度の「白八幡宮大祭」について、西海小、舞戸小の1、2年生が勉強しました。発達段階から考えれば難しい内容ですが、写真や動画を使ってのわかりやすい説明に、子どもたちは新しいものに触れる感覚で見入って聞いていました。このような歴史的事象に触れることにより、子ども一人一人の知的好奇心がぐすぐぐと、ふるさと鯔ヶ沢に誇りが持てるようになり、将来いろいろな分野で活躍できる人材に育っていくのではないのでしょうか。今回は歴史的内容に触れるものでしたが、他にも人や自然、地場産業など様々な内容を示していくことで、「ふるさと学習」の実践とともに鯔ヶ沢町の良さを再確認することにつながっていくと思います。カリキュラムマネジメントの考え方が学校現場でも定着してきている中、この「ふるさと学習」が開かれた教育課程として位置づけられ、日々の教育活動の中で実践されていくことが何より大事です。人との出会いや、つながりの中で子どもたちは育っていきます。そういう意味でも、鯔ヶ沢町の「ふるさと学習」は《地域とともにある学校》を目指しているコミュニティ・スクールの考え方に合致するものであり、これからいろいろな場面で地域と子どもたちのかかわりを紹介していきたいと思っています。

「カリキュラムマネジメント」とは、教育目標実現に向け子どもや地域の実態を踏まえ、教育課程(カリキュラム)を編成、実施、評価、改善を計画的、組織的にすすめることです。

舞戸小6年生、(餅の沢遺跡、山田野兵舎跡、トーチカ等見学) 7/15(木)

(記 社教推進 DC 木村)



西海小3、4年生(白八幡宮大祭、北前船について) 9/3(金)



西海小、舞戸小1、2年生(白八幡宮大祭について) 9/8(水)

